

もくじ

日本生理人類学会の歴史と研究	1
学会広報活動—広報担当理事より	4
受賞者の言葉	5
生理人類学満喫	6
第 84 回大会(九州大学)案内(第 2 報)	7
学会動静・編集後記	9

■日本生理人類学会の歴史と研究

岩永光一(千葉大学)

コロナ禍もようやく終息の兆しが見えてきたようです。この間、年次大会や理事会などもオンライン開催がほとんどで、自由で活発な議論をモットーとする本学会の本領を発揮するのが難しい時期だったと言えるでしょう。新年度を迎えて、この経験を活かしつつも、そのような特徴をさらに生かした学会の発展が期待されます。

一昨年からの 2 年間、理事会の企画戦略委員会の委員長を担当しました。役員選出方法や会員アンケート、学会広報などについて検討しましたが、本学会の歴史と研究内容に関する資料をまとめ、学会ホームページに掲載しました。すでに読んでいただいた方もいらっしゃると思いますが、新しい体制が始まる節目にあたって下に再掲させていただきます。「日本生理人類学会ってどんな学会?」、「生理人類学ではどんな研究をやっているの?」、このよう

な時に話題にしていただけたら幸いです。以下の二つの小文をきっかけとして、一人でも多くの方が年次大会や研究部会などに参加していただき、さらには Journal of Physiological Anthropology や日本生理人類学会誌に論文を投稿されることを期待しています。

一般社団法人日本生理人類学会の歴史

生理人類学の組織的活動は、生理人類学懇話会に始まります。1978 年 11 月 8 日、新潟市で開催された日本人類学会・日本民族学会連合第 32 回大会の前日のことです。世話人代表の吉田敬一先生(初代会長)はじめ 51 名の有志によって生理人類学懇話会が発足し、日本生理人類学会の歴史が時を刻み始めました。

1979 年 2 月に第 1 回生理人類学懇話会が東京で開催されて以来、2019 年の日本生理人類学会第 80 回大会まで、原則年 2 回の学術集会を日本各地で開催してきました。一般社団法人となった 2020 年からは、年次大会と

して年 1 回の開催となりました。日本生理人類学会の学術集会は、参加者間で活発な質疑応答が展開されることが特徴です。折しも新型コロナウイルスのパンデミックによって第 81 回・第 82 回大会はオンラインでの開催を余儀なくされましたが、ポストコロナの時代を見据えた新しいスタイルの研究交流を積極的に模索し、展開しています。

日本生理人類学会の学会誌の歴史は、1982 年に刊行された生理人類学懇話会会誌に遡ります。最初の生理人類学懇話会会誌は会員向けの情報誌的な性格が強いものでしたが、1983 年の第 2 巻 1 号から Annals of Physiological Anthropology (生理人類誌) として、英文と和文の論文を掲載し年 4 回発行される本格的な学会誌に生まれ変わりました。その後 1995 年には、APPLIED HUMAN SCIENCE Journal of Physiological Anthropology に名称を変更して、完全英文誌として生まれ変わりました。また、和文論文を発表するための和文誌の刊行を希望する会員の声を反映して、1996 年に日本生理人類学会誌が刊行されました。その後、英文誌は 2000 年に、和文誌は 2017 年に J-STAGE によるオープンアクセスとなりました。さらに、英文誌は 2006 年に現在の Journal of Physiological Anthropology に改称し、2012 年には冊子体を廃止したオープンアクセス電子ジャーナルとして BioMed Central (BMC) から刊行されるようになりました。このように英文誌は我が国の学術団体が刊行する学会誌の中でも、いち早くオープンアクセスの電子化に取り組んだ例として注目されました。また、英文誌はインパクトファクターの取得にも積極的に取り組み、2013 年に最初のインパクトファクターが公表されて以来、順調にその値は向上しています。

日本生理人類学会の歴史の中で、生理人類学の国際組織としての国際生理人類学連合 (International Association of Physiological Anthropology, IAPA) との関係を見逃すことはできません。生理人類学は我が国を中心に発展した学術領域であり、日本生理人類学会は IAPA の中核としての役割を担っています。IAPA の国際会議である国際生理人類学会議 (International Congress of Physiological Anthropology, ICPA) は 1991 年 (東京、人間—生活環境系国際会議と共催) を皮切りに隔年で開催され、2022 年 (ユージーン・オレゴン) までに 15 回を数えます。その間、ドイツ、クロアチア、米国、モスクワに生理人類学の拠点ができました。日本生理人類学会はこれまでに、第 1 回、第 3 回 (1996 年、奈良)、第 8 回 (2006 年、鎌倉)、第 12 回 (2015 年、千葉) の 4 回の開催を担当してきました。開催の合間には日本生理人類学会と海外の学会や大学とのジョイントシンポジウムなどの国際企画も積極的に行われています。

(主な沿革)

1978 年 11 月

生理人類学懇話会発足
(初代会長・吉田敬一)

1982 年 10 月

生理人類学懇話会会誌 Vol.1, No.1 発行

1982 年 10 月

生理人類学研究会に名称変更

1983 年 1 月

会誌を “The Annals of Physiological Anthropology” (生理人類誌) に改称

1987 年 4 月

生理人類学会に改称

1991 年 12 月

第1回国際生理人類学会議 (International Congress of Physiological Anthropology)を東京で開催(会議長・加地正郎)

1993 年 4 月

日本生理人類学会に改称

1995 年 1 月

会誌の英文誌化に伴い、“APPLIED HUMAN SCIENCE Journal of Physiological Anthropology”に改称

1996 年 2 月

和文誌「日本生理人類学会誌」を創刊

2006 年 1 月

英文誌を “Journal of Physiological Anthropology”に改称

2012 年 1 月

英文誌を完全電子ジャーナルとして発行

2020 年 4 月

一般社団法人日本生理人類学会を設立

生理人類学の研究について

生理人類学では、「人間の科学 the science of man」という人類学の共通理念のもとに、生理を中心に心理や行動などを含めた人間特性を解明しようとする基礎的な研究はもとより、衣食住や労働、健康など、生活の営みとそこに生きる人間を対象にした応用的な研究まで、幅広い取り組みが行われています。そのような研究は、厳密に制御された実験室でさまざまな人間の反応を計測する実験室研究や、実際の生活環境に生きる人間の姿を観察し記録するフィールド研究まで、さまざまな研究手法によって実践されています。

日本生理人類学会では、これらの研究成果を社会に還元し真に健康で快適な生活環境の実現に貢献するために、さまざまな製品や仕組みの開発に資する情報を発信するとともに、

企業等との共同研究にも積極的に取り組んでいます。

生理人類学で行われる研究にはさまざまな対象がありますが、近年の学会誌や年次大会などで発表された研究の対象は、おおむね以下のように分類することができます。いずれも人間とその生活を研究の対象にしていると言えますが、ここに挙げられていないものも含めて総合的な人間の理解が促進されることを目指しています。

・人間の特性

生体リズム・体温調節・姿勢

脳機能・精神機能・情動・感情

感覚(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・体性感覚など)

遺伝・発育・発達

・人間と環境

温度・光・音・高地・森林

・人間の生活

衣服・栄養・住環境・労働・身体活動・睡眠

健康・疾病・医療・高齢者・福祉・デザイン

・人間の測定と評価

測定法・評価法

生理人類学の研究成果は、日本生理人類学会が刊行する Journal of Physiological Anthropology と日本生理人類学会誌に学術論文として発表されます。これらの学会誌は、いずれもオープンアクセスの電子ジャーナルとして刊行され、下記の URL から、どなたでも無料で読むことができます。

<https://jphysiolanthropol.biomedcentral.com>

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjpa/-char/ja/>

また、日本生理人類学会の年次大会では、

シンポジウム、講演、口演発表、ポスター発表等として研究の成果が発表されます。これらの研究発表の内容は、大会ごとに発行される概要集に掲載されます。年次大会については、[各大会のホームページ](#)をご覧ください。

■学会広報活動—広報担当理事より

小崎智照(福岡女子大学)

向江秀之(豊田中央研究所)

仲村匡司(京都大学)

広報は上記3名の理事で担当し、学会 Web サイトの更新と PA デザイン賞の推進を主な活動としています。

Web サイトへの掲載は迅速です！

[日本生理人類学会の Web サイト](#)は本学会の活動を内外に広く伝える重要な媒体です。広報担当では各担当理事や大会長等からの依頼を受け、できる限り迅速に Web サイトへ掲載するよう心がけております。また、会員の皆様からの情報も Web サイトへ掲載いたします。本学会に関する各研究機関の公募情報など、会員の皆様へ有用な情報がございましたら、遠慮なく広報担当(jspa-pr@jspa.net)へご連絡ください。

PA デザイン賞をバージョンアップしました！

日本生理人類学会が発刊する学術誌、日本生理人類学会誌および Journal of Physiological Anthropology に掲載される論文や、学会が主催する学術大会(直近では京都大学で開催された第83回大会)での発表の多くは、基礎的研究に関するものであり、その研究成果が人々の生活や社会でどのように活かされるのか分かりにくいところがあります。着々と発表されている生理人類学的な研究の成果

を、企業等での「ものづくり」に反映してもらえれば、この分野の発展と普及に大きく貢献することが期待されます。そこで創案されたコンセプトが「PA デザイン」です。PA デザインとは、ヒト(生物学上の人間)の生理的特性を理解し、その知識やデータを活用して人工物や人工環境、ライフスタイルを創出することをいいます。そして PA デザイン的な視点や研究成果を、多様なヒトの暮らしや社会の発展・改善に活用した事例を表彰するために、PA デザイン賞が創設されました。

とは言うものの、まだまだ PA デザイン賞の知名度は低く、ここ数年は応募がありません。そこでより広く関心を持ってもらい、かつ応募しやすくするために、今期の広報担当理事で策を練りました。授与対象を、工業製品や生活環境に限らず、ライフスタイルまでを含む以下の3つの領域に定義し直しました。製品化前の研究も対象となっています。

1) アメニティデザイン領域

ヒトの心や感性を豊かにし、身体を健やかにする研究や製品(試作品を含む)が対象。

2) ライフデザイン領域

人間生活(暮らし)の質を高める研究や製品、生活習慣や社会の制度・サービスといったしくみが対象。

3) サステナブルデザイン領域

環境や社会への負担も配慮しながら、アメニティやライフスタイルの満足度を高める、または維持する研究・製品、しくみが対象。既存のものの改良も対象とし、アメニティ、ライフデザイン領域との重複受賞も可能です。

PA デザイン賞は正会員、賛助会員であれば無料で申請ができます。これほど大盤振る

舞いなデザイン賞は世の中に稀有と思いますので、たくさんのご応募をお待ちしております。なお改正個人情報保護法に合わせて、応募用紙も刷新いたしました。詳細は Web サイト (図 1) をご確認ください。

PA デザイン賞の対象は、世の中の変化に合わせて変わるものと考えています。会員の皆様におかれましては、この賞のあり方についてもご意見をいただけますと幸いです。



図 1 PA デザイン賞の掲載場所と受賞事例

■受賞者の言葉

「人工知能と向き合って」

湯田恵美(東北大学)

この度、私は JPA High impact review article award を受賞させていただくこととなり、心より感謝申し上げます。この賞を受けることができたのは、ご支援いただいた方々のおかげであり、深く感謝しております。

この論文は、心拍変動に関する私たちの長年の研究の成果をまとめたものであり、多くの方々からのご意見やアドバイスをいただきながら、精緻化されたものです。今後も、この研究分野において更なる進展を目指して、引き続き研究を続けてまいります。

最後に、再度このような素晴らしい賞を受賞させていただいたことに深く感謝いたします。

引き続き、学术界に貢献し続けるよう、最善を尽くして参ります。ありがとうございました。

敬具

チャット GPT(笑)

この原稿を執筆しております 2023 年 4 月、人工知能(AI)を使った対話型ソフト・チャット GPT が世間を賑わせております。イタリアのデータ保護当局は個人情報保護を理由にチャット GPT を一時的に使用禁止にするなどの対策を講じましたし、私が所属する東北大学でも、生成系 AI 利用に関する留意事項について連絡がありました。誤った回答もありますから注意が必要ですし、ご利用は計画的に！

AI の機械学習による個人情報の利用については、透明性を高めていく工夫が必要です。そして、心電図や身体加速度など生体信号を扱う私たち研究者も、その安全な利活用と常に向き合っていきたいと思っています。

さて、JPA High impact review article award を受賞させていただいた[この論文](#)、准教授へ昇進する際に、上司に「君はいい論文を持っているから、この論文があなたのキャリアを助けてくれると思うよ」と言っていただきました。このお話を JPA の編集長である樋口先生にお伝えしたところ、「論文の価値のわかる素晴らしい上司ですね」と。それ以降、素晴らしい上司に恵まれて幸せだと思えるようになりました(笑)。自分の後に道ができるつもりで精進いたします。

2023 年 4 月より、居室を青葉山キャンパスに引っ越し、2 年 4 か月ぶりに戻ってきました。青葉山キャンパスの桜の景色(図 2)を見ることができるのは嬉しいのですが、自然豊かなため、クマに気を付けています。生理人類学会初の東北大学開催がいつか実現する日まで、元気で頑張りましょう！



図2 青葉山キャンパスの桜

■生理人類学満喫

「新しい門出を迎えるにあたり」

夏亜麗(株式会社本田技術研究所)

今年の4月から長年お世話になった千葉大学・人間生活工学研究室を離れ、自動車メーカーの研究所に入社することになりました。この度、光栄なことに、原稿執筆の機会をいただきました。

これまでの研究生活を振り返りますと、長いようで、あっという間に過ぎていったと思えます。初めて千葉大学の西千葉キャンパスを訪れた際に、満開の桜が続く弥生通りを見て驚いたのがつい昨日のここのように感じられます。学生時代、指導教員の勝浦哲夫先生との出会いは十数年前のことでした。学者の雰囲気にも包まれる優しい先生だという最初の印象を持ちました。片言の日本語しかしゃべらなかったにもかかわらず、ヒトの生理特性に興味がありエルゴノミクス(Ergonomics)に憧れていた私を受け入れてくださいました。毎日が充実していき、授業や会話から多くの刺激を受けました。博士課程で学位を取得後しばらくして、勝浦哲夫先生がご退官をお迎えになられました。その後、下村義弘先生のもとで特任研究員として研究を続けることができました。

研究室は、学外企業との共同研究もしばしば行われます。基礎研究を得意としており、社会実装まで漕ぎ着ける研究成果を掘り出すことが基本方針として挙げられております。私は主に学外企業との共同研究に携わり、研究室の後輩への指導も行っていました。その中で、大手電気メーカーさんとの共同研究で人の眠気を検知・予測し、覚醒状態を維持させるための眠気制御技術の開発に携わりました。研究成果として国際誌論文掲載や職務発明と特許出願をすることができ、今後の研究を進めていく上でも大きな自信になりました。共同研究を通じて、ひとつひとつ経験と実績を積み上げてきました。下村義弘先生のもとで教えていただいたことは、研究の真の楽しさだけではなく、学生達に対する責任感と親切さです。特に印象に残っているものは、相手が学生であれ、誰であれ、教えるを乞う者には、真摯に向き合うという先生の姿勢であり、私にとって何よりのお手本となっております。

そのような恵まれた環境にいたことに改めて感謝しております。これまで先生達に受けたご恩は、どのように返せばいいのか？何度も自問自答しました。出て来た答えは「恩返し」ではなく「恩送り」、すなわち、その想いを次の後輩に渡すということでした。恩師や先輩、親への恩返しは、少しでも成長した自分の姿を見せることだと思うのですが、それには長い年月が必要で、簡単なことではありません。人生に雑用、無駄は無く、それらの経験はその後の人生に必ず役に立つと私は信じています。諦めなければ、妥協しなければ、その努力は必ず先で実ります。後輩の皆さんも、ぜひ夢を実現してください。自分が本当にしたいこと、自分がチャレンジしたいことは何なのか、自分の強みは何なのか絶えず把握することが、恩を

送ることになると思うのです。この恩送りを通して、自分には素晴らしい恩師と後輩がいてくれたことに、改めて感謝せずにはいられませんでした。

最後になりますが、二十数年間の長きに亘り研究室を支えていただいた秘書の石橋直子さんにも感謝の意を表したいと思います。あらためてこれまでのご厚情に感謝申しあげますとともに、人間生活工学研究室のますますのご発展を祈念いたします。

■第84回大会(九州大学)案内(第2報)

大会長 前田享史(九州大学)

下記の通り84回大会の詳細をご案内いたします。なお、同内容は学会 HP の [84回大会案内第2報](#) に掲載していますので、ご参照ください。皆様のご参加をお待ちしております。

- 1) 会期:2023年6月16日(金)~18日(日)
- 2) 会場:九州大学西新プラザ(福岡市早良区西新 2-16-23 <http://nishijinplaza.kyushu-u.ac.jp/access.html>)
- 3) 開催形式:対面開催
- 4) プログラム概要(予定):
 - ・6月16日(金)
第84回大会フロンティアミーティング
 - ・6月17日(土)
日本生理人類学会第84回大会
一般口演、ポスターセッション、シンポジウム
1「人工知能と生理人類学」、懇親会ほか
 - ・6月18日(日)
日本生理人類学会第84回大会
一般口演、ポスターセッション、シンポジウム
2「ストレスを考える」(人類学関連学会協議会合同公開シンポジウム)

5) 参加費・振込先:

参加登録・発表登録の前に以下の大会参加費・懇親会参加費のお振込みをお願いいたします。参加される方は必ず6/2(金)までに登録・振込をお願いします。大会当日の会場での参加申し込みは受け付けません。

【大会参加費】

早期割引期間(2023年4月1日(土)~5月12日(金))の払込

・一般(学生の身分を有しない方)

会員 8,000 円 非会員 9,000 円

・学生

会員 3,000 円 非会員 4,000 円

通常料金期間(2023年5月13日(土)~6月2日(金))の払込

・一般(学生の身分を有しない方)

会員 9,000 円 非会員 10,000 円

・学生

会員 4,000 円 非会員 5,000 円

【懇親会参加費】

会員 6,000 円 非会員 6,000 円

学生 3,000 円

【振込先】

銀行名:ゆうちょ銀行

口座名称:一般社団法人 日本生理人類学会
シャ)ニホンセイリジンルイガツカイ

記号:11320

番号:05215711

(他金融機関から振込の場合)

銀行名:ゆうちょ銀行

店名(店番):一三八(138)

口座番号:普通 0521571

6) 申込日程・方法:

【参加登録】

・参加登録期間(含む懇親会):

2023 年 4 月 1 日(土)～6 月 2 日(金)

・参加登録方法: 下記の「参加登録と発表登録手順」をご参照ください。

【発表登録・概要提出】

・発表登録・概要提出期間:

2023 年 4 月 1 日(土)～5 月 12 日(金)

・発表登録・概要提出方法: 下記の「参加登録と発表登録手順」をご参照ください。

・演題概要作成要領:

[概要作成要項](#)に従い、[所定の様式](#)により作成してください。図・表、写真(カラー可)が必要な場合は本文中に割り付けてください。ただし、容量は抄録全体で2MBまでとします。なお、概要集は学会 HP のマイページにて会員向けに公開する予定です。

・発表資格:

筆頭演者は正会員・学生会員である必要があります。正会員が指導する非会員の学生は筆頭演者として発表できますが、この場合、当該正会員が連名である必要があります。

【参加登録と発表登録手順】

下記の登録手順を行う前に、必ず大会参加費・懇親会参加費を納入頂きますようお願いいたします。登録の際、参加費の入金日、入

金額、会員番号の入力が必要です。

1. [参加・発表登録フォーム](#)にアクセス。

2. 必要事項を入力(メールアドレス、氏名、所属、連絡先等)。

3. 発表情報の入力(発表タイトル、発表者(連名全員の氏名)、希望発表形態等)と抄録ファイルのアップロード(ファイル名は「JSPA84 概要_所属名_氏名」としてください)。

4. 最後に送信ボタンをクリックして登録完了です。確認メールが届きます。

※手順 3 は発表希望の場合に表示されます。

7) 広告・協賛・製品展示:

下記 URL をご参照ください。

<https://jspa.net/congress84>

8) その他

子育て世代支援の一環として、おむつ替えや授乳、お昼寝などができるキッズスペース(畳の部屋)の準備を予定しております。

会員サービスの一環として、概要集を学会 HP のマイページにて公開する予定です。

9) 問合せ先

日本生理人類学会第 84 回大会事務局

西村貴孝(九州大学)・前田享史(九州大学)

E-mail: jsa84@jsa.net

■学会動静

- ・一般社団法人日本生理人類学会代議員ならびに役員候補者選挙

2023 年 1 月 11 日(水)代議員選挙の投票開始

2 月 27 日(月)監事候補者・理事候補者選挙の投票開始

4 月 3 日(月)会長候補者選挙の投票開始

4 月 17 日(月)副会長候補者選挙の投票開始

5 月中旬 選挙結果告示

- ・2023 年度社員総会

日時:2023 年 6 月 24 日(土)13:30~14:30

会場:オンライン

- ・2022 年度優秀研究賞、優秀論文賞、及び論文奨励賞 受賞記念シンポジウム

日時:2023 年 6 月 24 日(土)15:00~17:00

会場:オンライン

- ・日本生理人類学会第 84 回大会

大会長:前田享史(九州大学)

会期:2023 年 6 月 16 日(金)~18 日(日)

会場:九州大学西新プラザ(福岡市早良区西新 2-16-23)

- ・日本生理人類学会第 85 回大会

大会長:跡見友章(杏林大学)

会期:2024 年 6 月 14 日(金)~16 日(日)または 21 日(金)~23 日(日)(検討中)

会場:杏林大学井の頭キャンパス(予定)

編集後記

いよいよ COVID-19 との本格的な共存が始まりそうです。2019 年 9 月(第 29 巻 3 号)から 2023 年 4 月(第 33 巻 1 号)まで 2 期の間、PANews の編集を担当させていただきました。この間ちょうど、“コロナ禍”の始まりから共存するまでの学会活動の様子を、PANews を通して眺めることができました。数々の受賞報告、大会案内、生理人類学あれこれや研究満喫、技術紹介など、生理人類学会はコロナ禍によって勢いを失うどころか果敢に挑戦を続けていたように思います。これからも、益々発展することを祈念しております。(下村)

次号予定

第 84 回大会(九州大学)報告、技術紹介など

2023 年 7 月末原稿締切(予定)

PAnews 編集事務局

下村義弘(千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュート)

shimomura [at] faculty.chiba-u.jp